

坂町における災害対応と今後の復興計画

令和元年6月3日(月)
坂町環境防災課

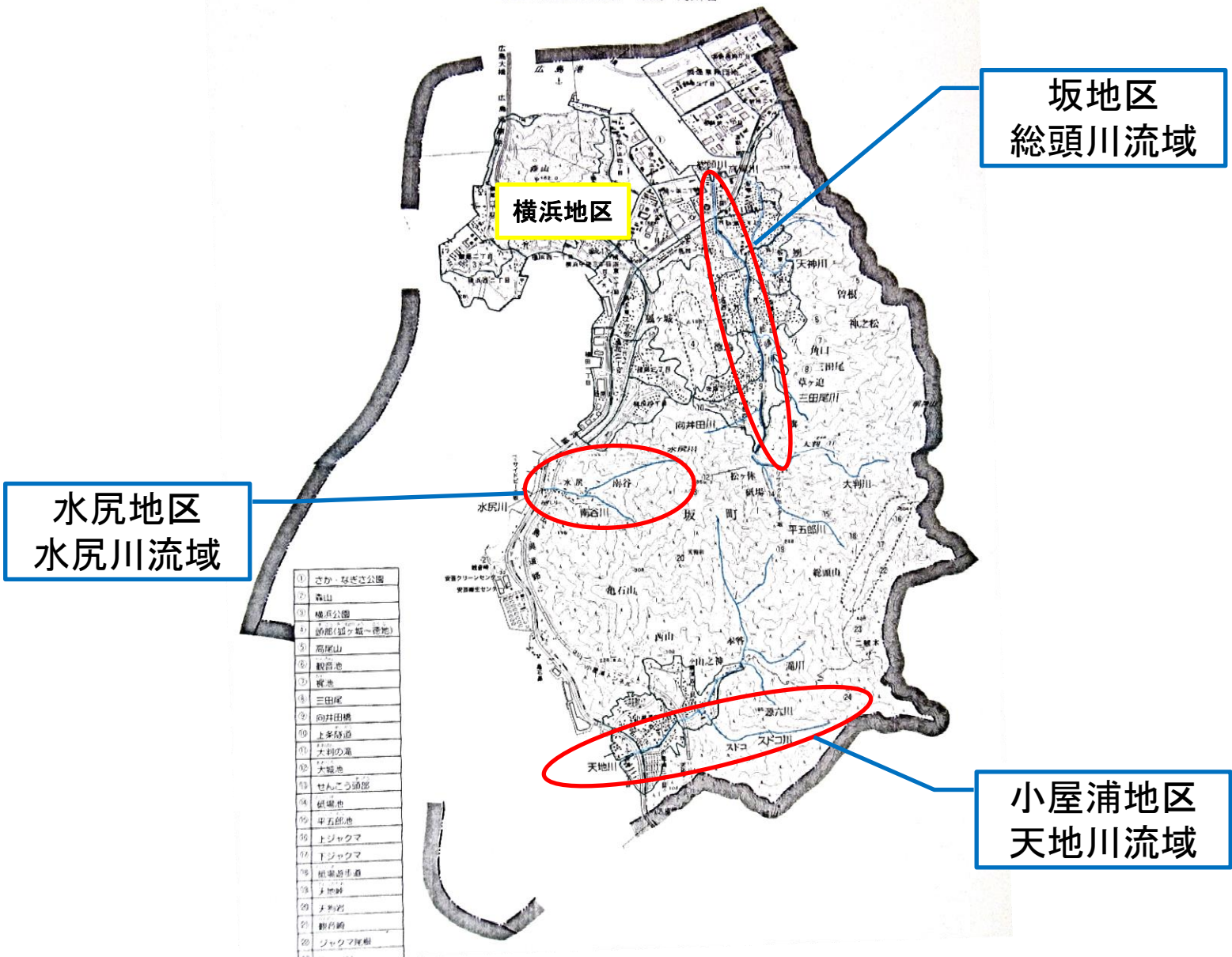
坂町について

- 人口 13,110人
- 面積 15km²
- 土地 急峻で平坦地が少ない
- 約50%が山林



町内の水系

本編で使した地名・地点・河川名



坂地区
総頭川流域

横浜地区

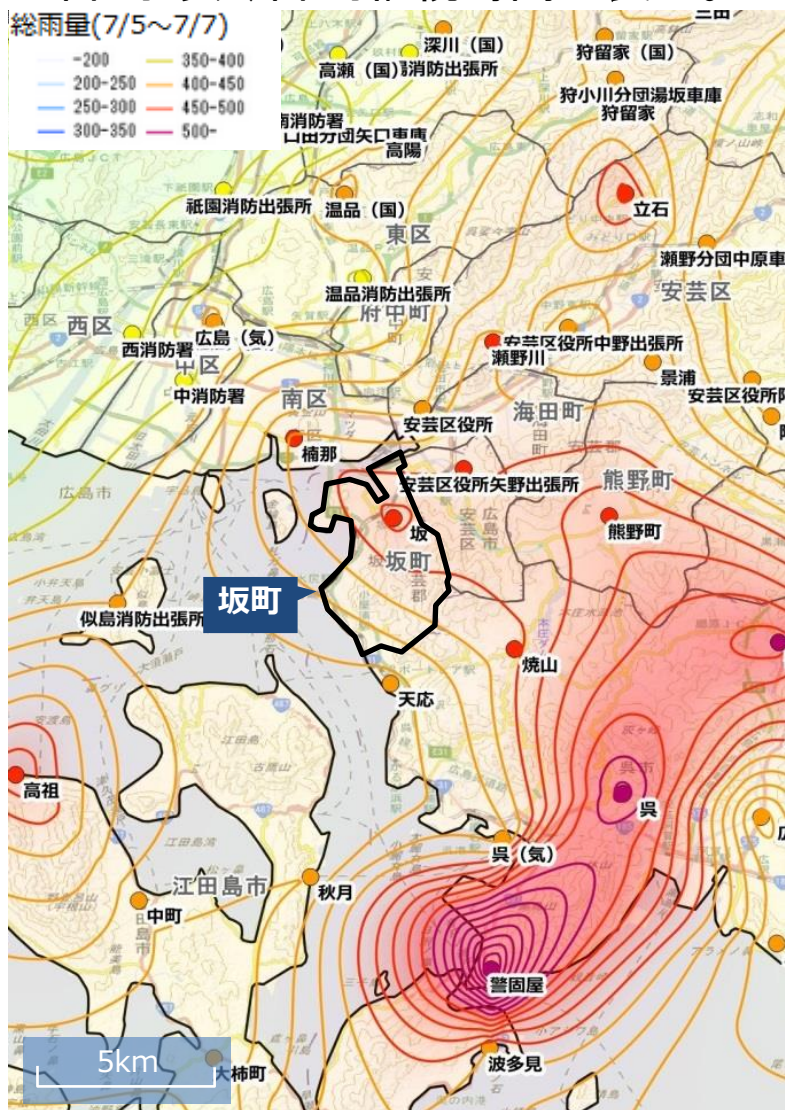
水尻地区
水尻川流域

小屋浦地区
天地川流域

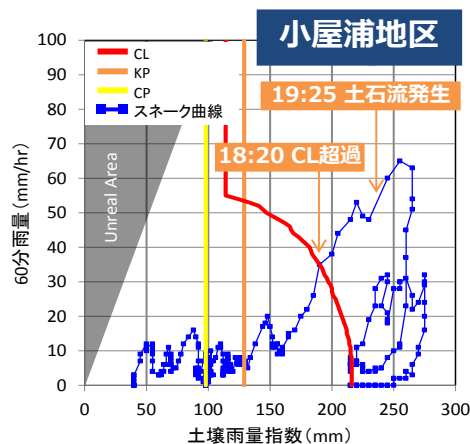
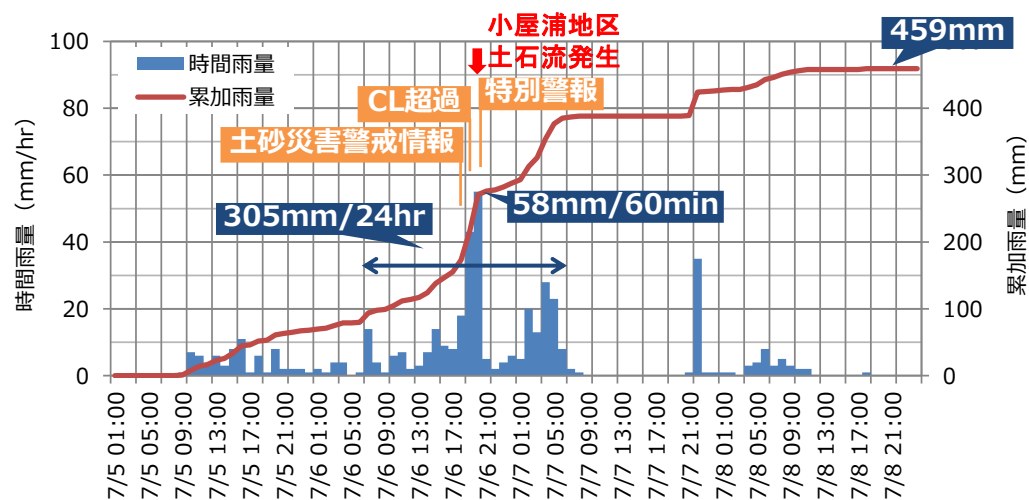
平成30年7月豪雨の降雨状況

出典：広島県砂防課 第1回砂防部会（平成30年9月10日）資料を編集
 (https://www.pref.hiroshima.lg.jp/uploaded/attachment/325374.pdf)

- 7/5に降り始め、7/6 18:20にCL(Critical Line)を超過。その後も早朝にかけてやや強いが降雨あり、降雨継続時間が長い。



天応観測所(呉市)	雨量	期間
累加雨量	459mm	7/5 8:50~7/8 18:00
最大24時間雨量	305mm	7/6 6:00~7/7 6:00
最大60分雨量	58mm	7/6 18:50~19:50



参考

CP:大雨注意報発表基準

KP:大雨警報(土砂災害発表基準)

CL:土砂災害警戒情報発表基準

避難情報

<7月6日>

時刻	発令情報・事象
15:00	避難準備・高齢者等避難開始（避難所開設）
17:35	土砂災害警戒情報発表
17:40	坂町避難勧告発令
18:20	CL超過(小屋浦地区)
18:45頃	がけ崩れ発生(横浜西1丁目)
19:25頃	土石流発生(小屋浦3丁目)
19:40	大雨特別警報発表 坂町避難指示発令

最も多くの避難者が避難したのが、7月7日午前4時時点
開設避難所11箇所にて1,353名が避難した

被害写真1



◀ 流木等で閉塞した河川
(総頭川下流域)



土石流が流れた後の河川 ▶
(総頭川中流域)



◀ 土石流が流れた後
(天地川中流)

土砂や流木が流入 ▶
(小屋浦みみょう保育園)



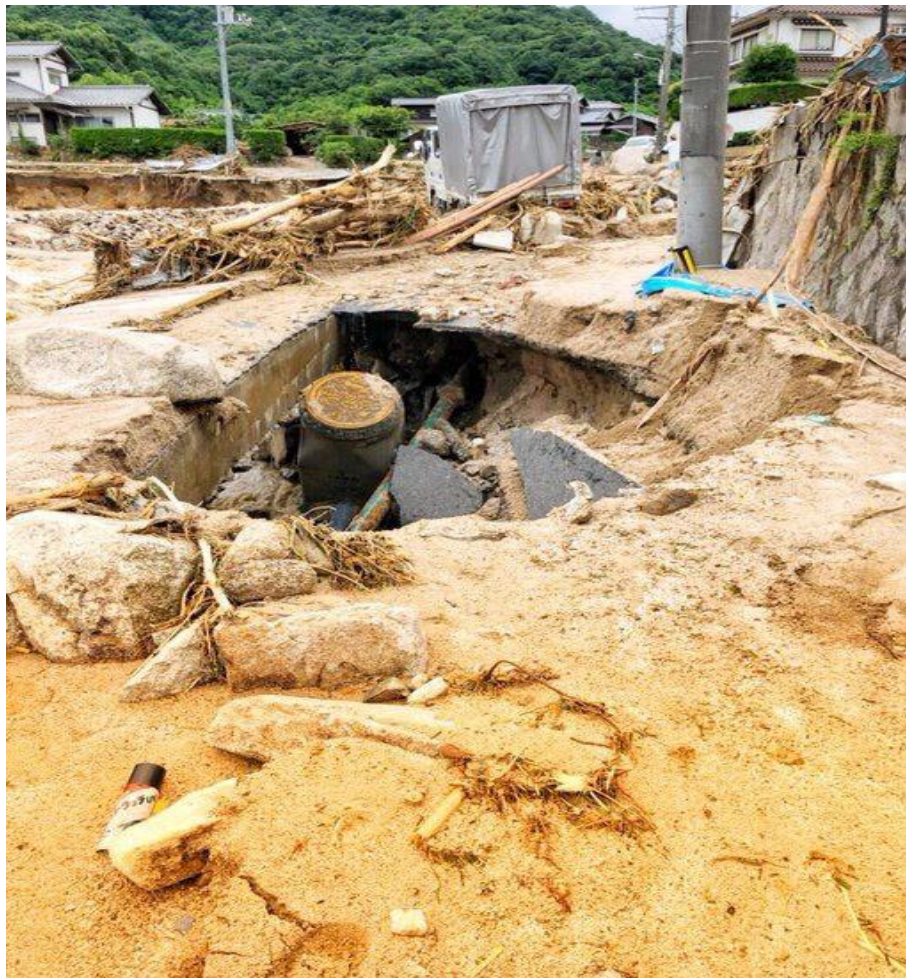
自衛隊による入浴支援



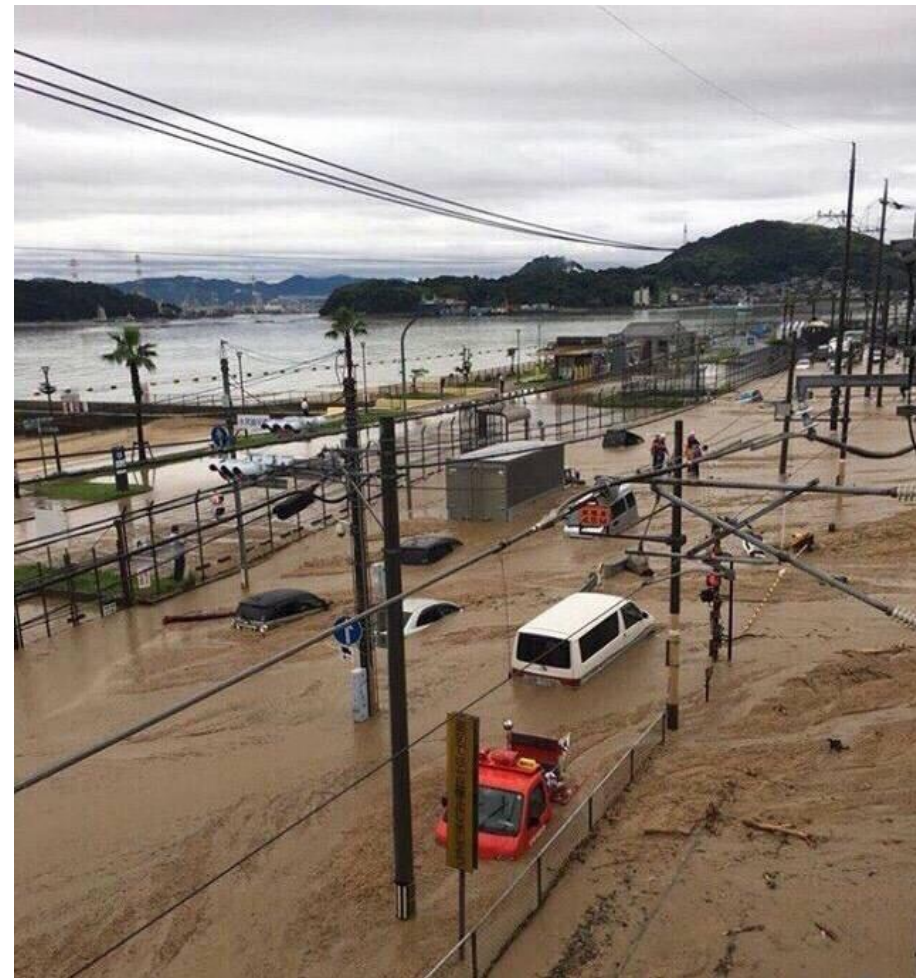
自衛隊による入浴支援
(小屋浦町有住宅前)



被害写真3



▲土石流によって陥没した道路
(総頭川上流域)



▲国道で土砂崩れが発生
(国道31号 水尻駅前)

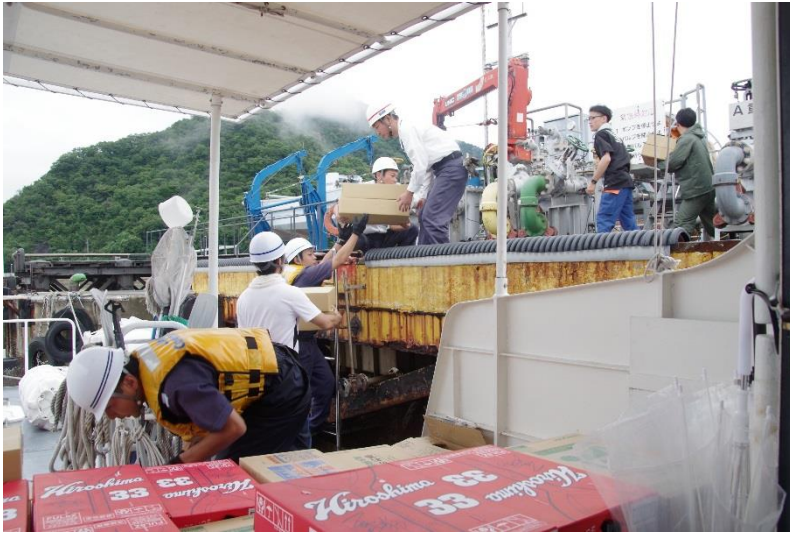


▲水没した住宅地
(坂地区)

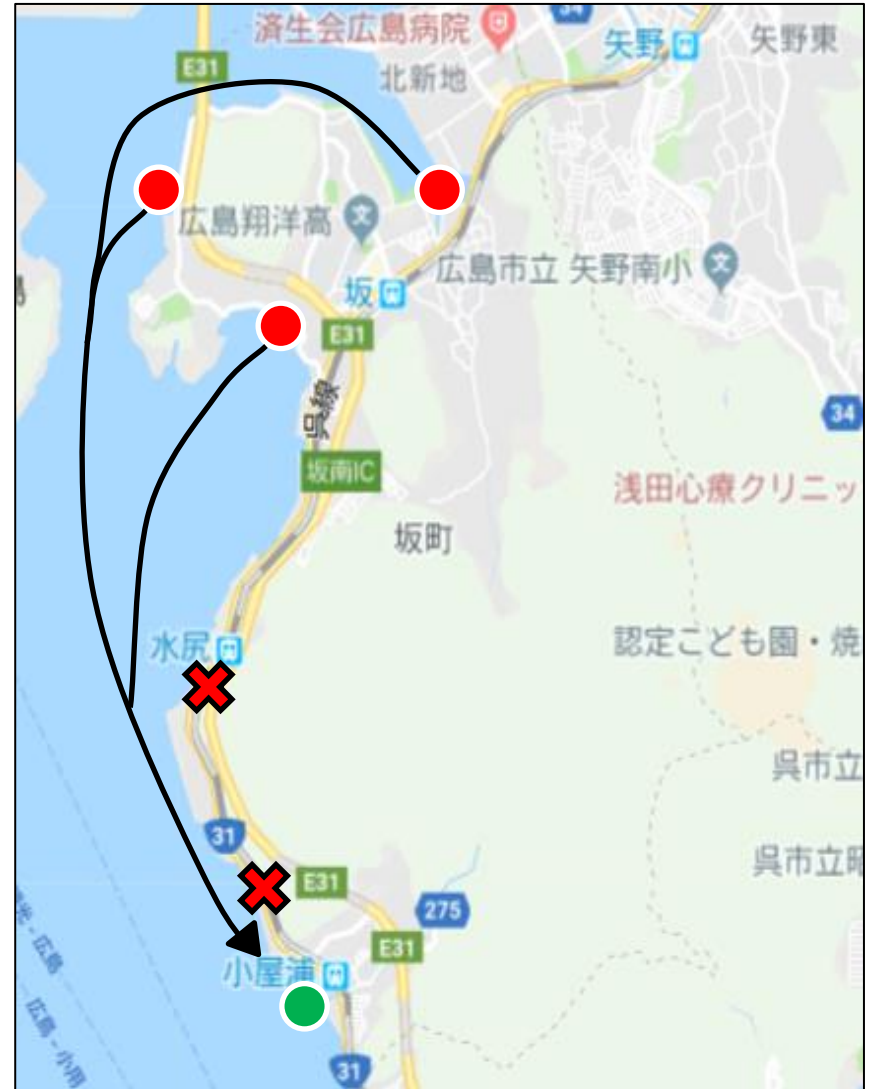


▲水没した住宅地
(小屋浦地区)

海上輸送



海上輸送



❌ 土砂崩れ発生場所

● 出船場所

● 着船場所

坂小学校・小屋浦小学校

◀ 坂小学校グラウンド
(総頭川堆積土砂置場)



小屋浦小学校グラウンド ▶
(災害廃棄物仮置場)

臨時災害FM放送局

7月20日に臨時災害FM放送局を開局し、
被災者の方に最新の情報を伝達した

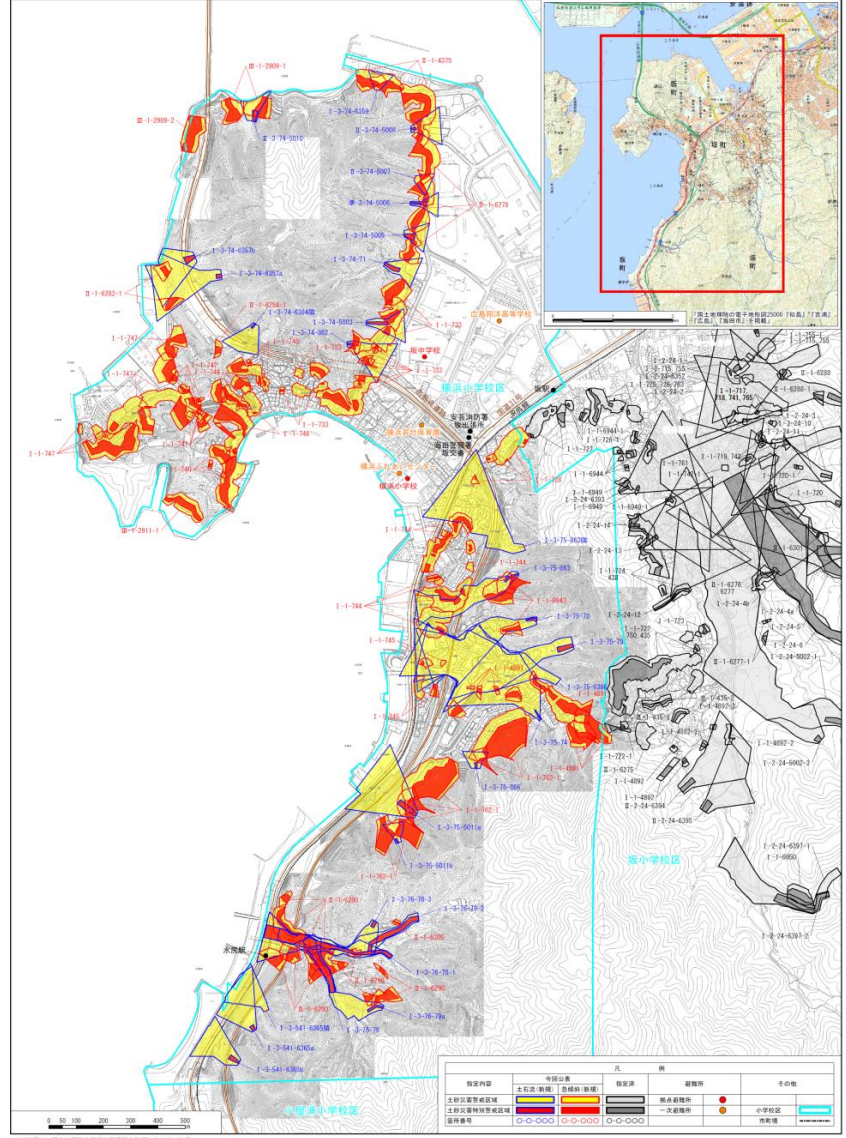
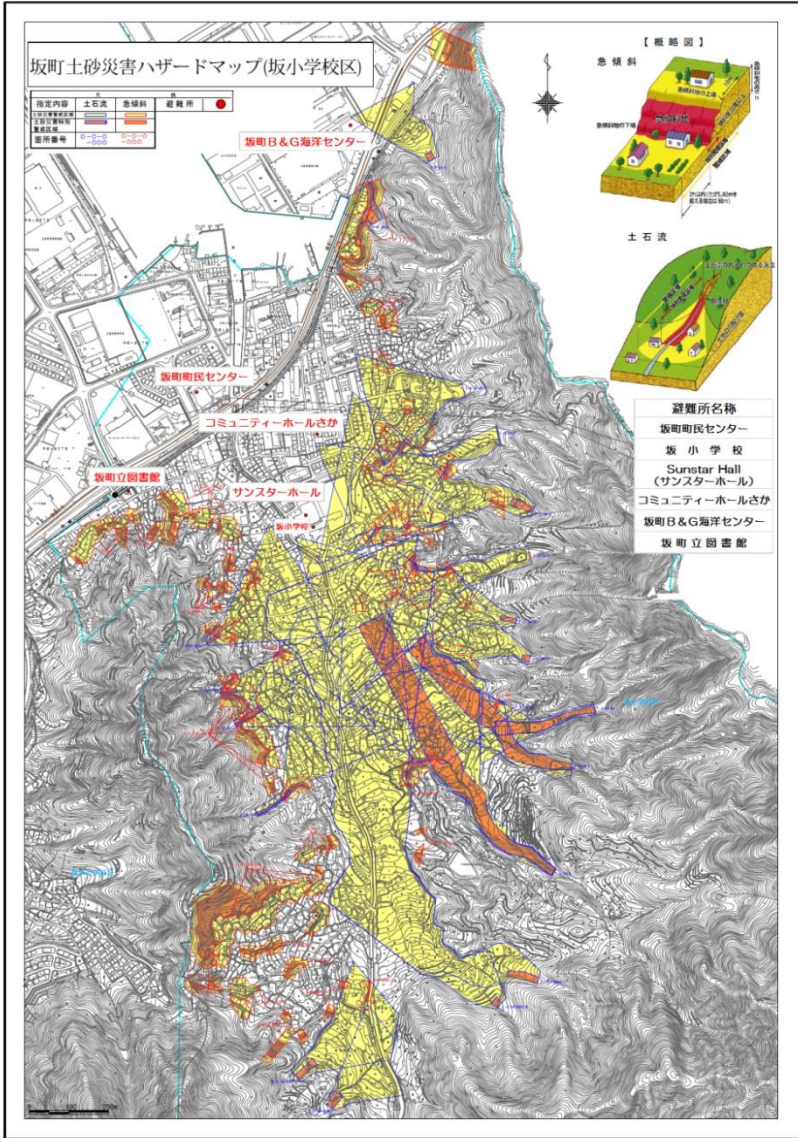


臨時災害FM局 ▶

土砂災害ハザードマップ

- 説明会・個別配布等により、ハザードマップを周知(坂町HPにおいて公開)

坂町土砂災害ハザードマップ (横浜小学校区)



この地図は、国土院の多量地図データを用いたものであります。

避難訓練



◀ 避難訓練の様子



職員による防災啓発活動 ▶

職員参集訓練

災害発生時の早期初動体制確立の為に
職員参集訓練を実施



防災リーダーの育成、自主防災会の活性化



自主防災会養成講座

地域防災リーダー養成講座 (DIG訓練)



土砂災害対策有識者委員会

どうすれば災害から住民の命を守れるのかの視点から、災害時における住民の避難行動を中心に課題と対応策を検討する委員会を開催した

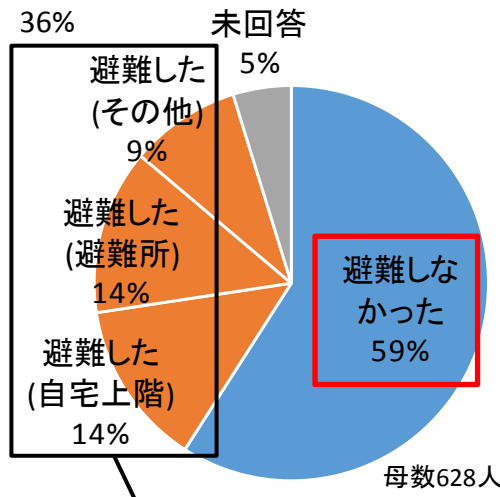


▲ 委員会の様子(海堀委員長挨拶)

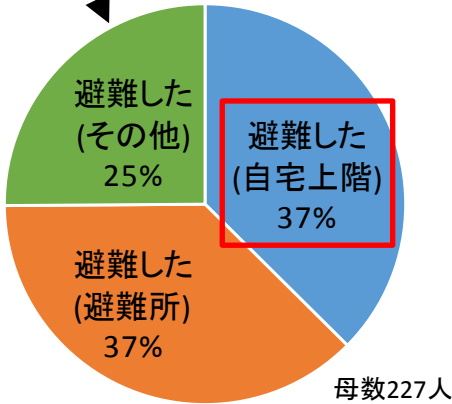
土砂災害避難の実態について(アンケート調査結果)

<避難行動の有無>

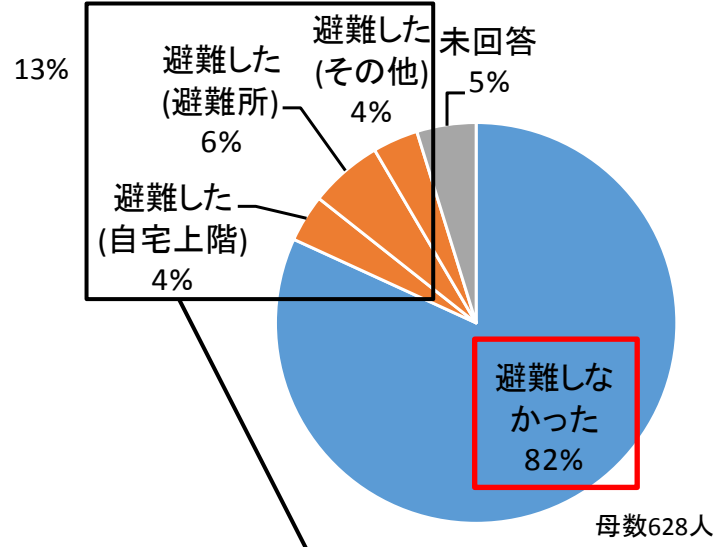
災害発生後も含めた 避難行動の有無



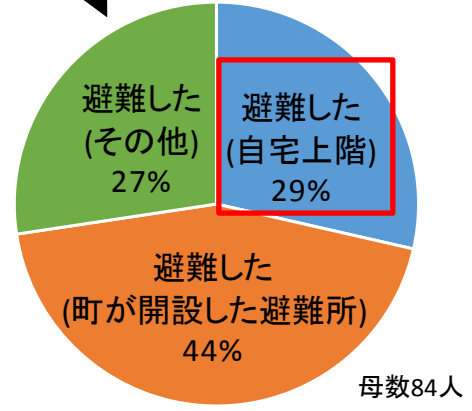
避難した人の 避難先内訳



7月6日19時(災害発生) までの避難行動の有無



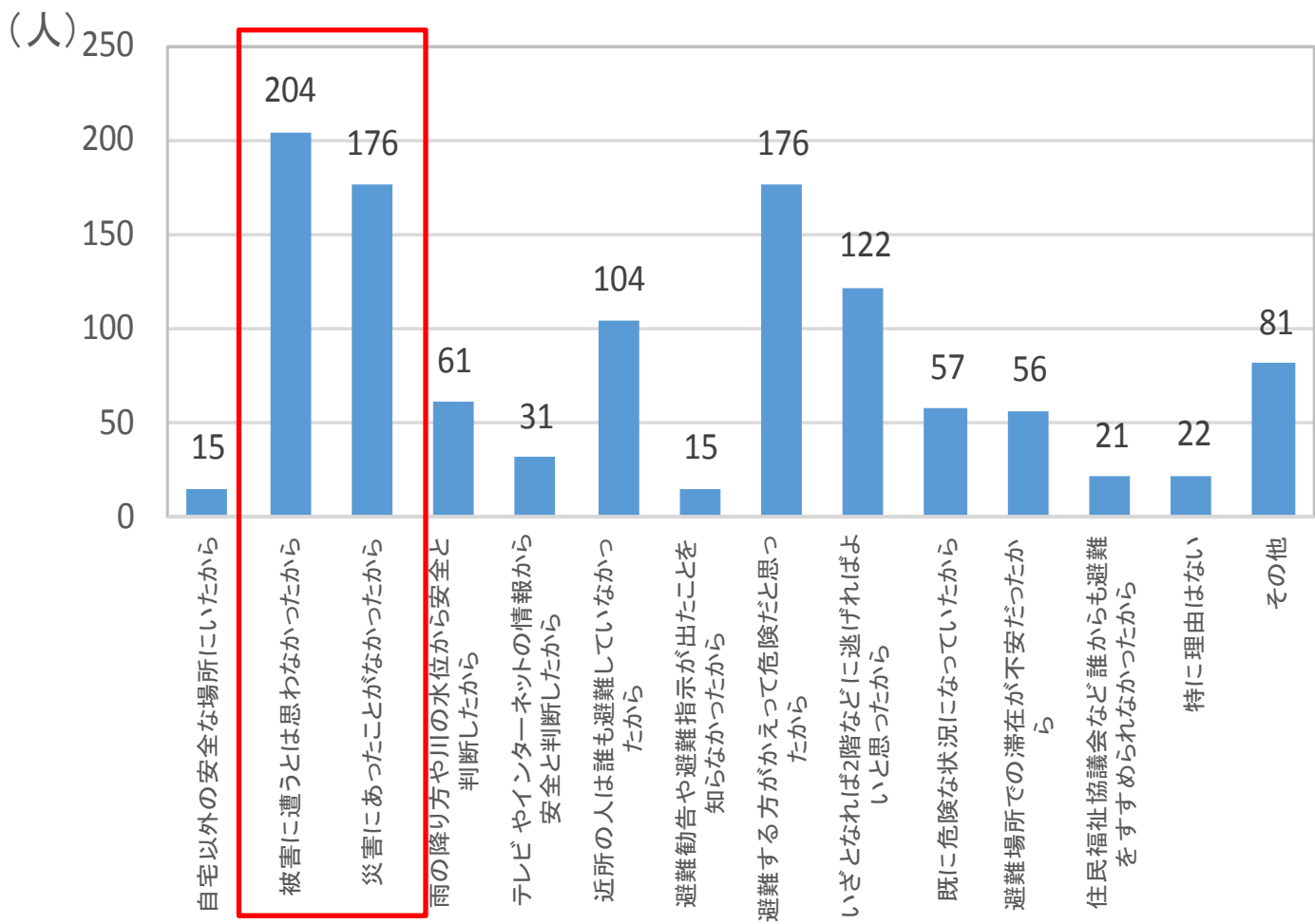
避難した人の 避難先内訳



土砂災害避難の実態について(アンケート調査結果)

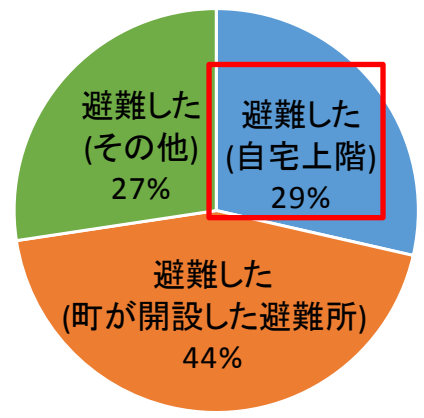
避難しなかった理由

母数371人



7月6日19時(災害発生)までの避難行動

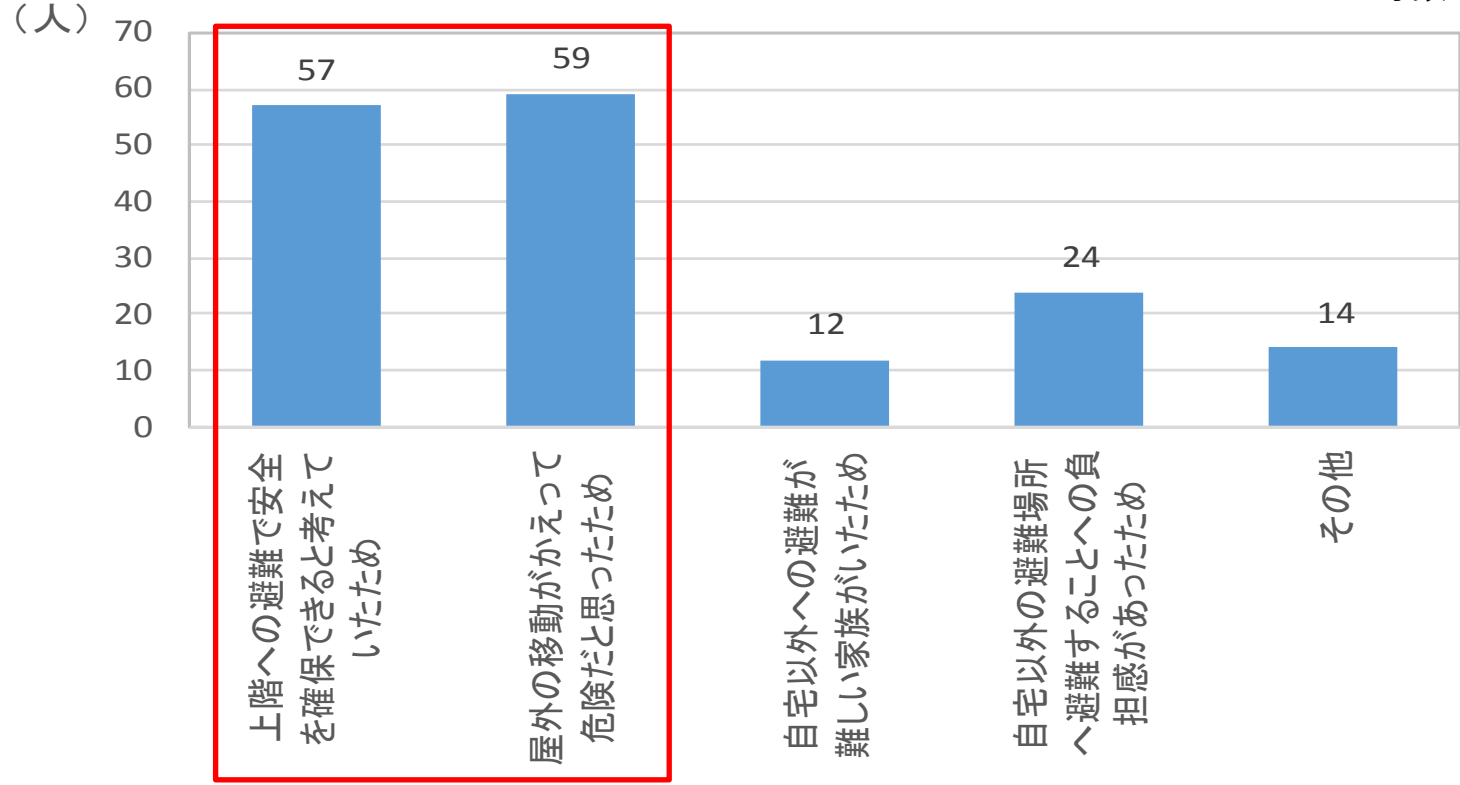
避難した人の避難先内訳



土砂災害避難の実態について(アンケート調査結果)²¹

自宅の上階に避難した理由

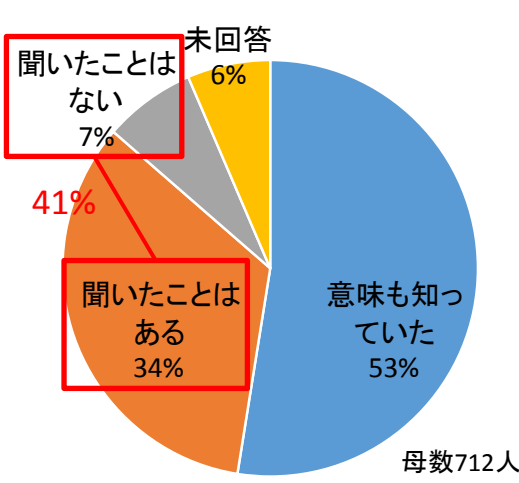
母数85人



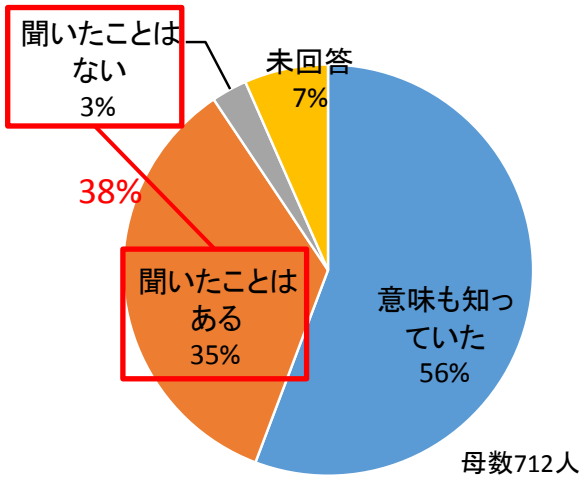
住民の危機意識について(アンケート調査結果)

<避難情報・防災情報の認識>

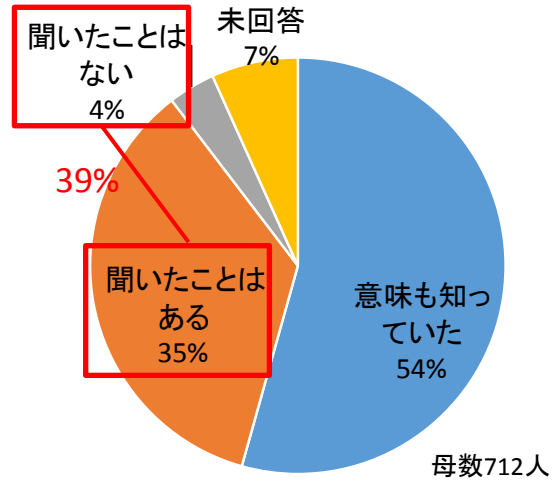
避難準備・高齢者等避難開始



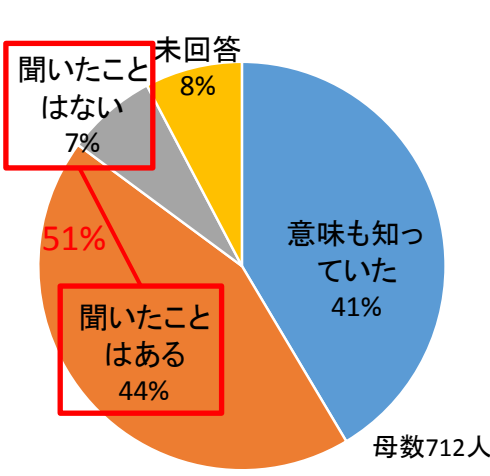
避難勧告



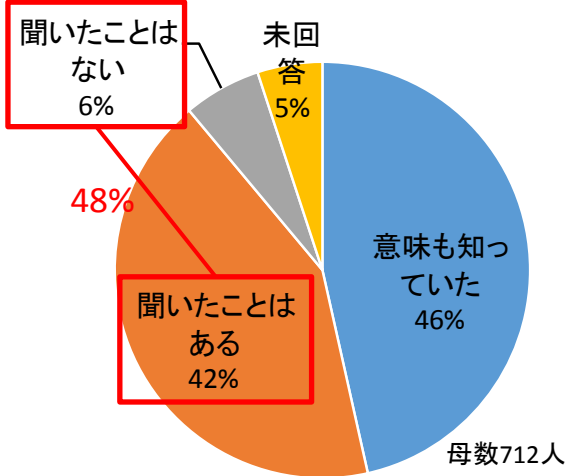
避難指示



土砂災害警戒情報



大雨特別警報



- 4割程度の人が、避難情報の言葉の意味を十分に理解できていなかった
- 5割程度の人が、土砂災害警戒情報や大雨特別警報の言葉の意味を十分に理解できていなかった

提言

- ◆土砂災害の危険性やとるべき避難行動の住民への周知
- ◆災害の歴史・被災経験の伝承に向けた取組の検討
- ◆住民に理解しやすい表現による避難情報の発信
- ◆住民自身が危険性を認識できる取組の検討
- ◆町内放送（屋外スピーカー）設備の改善
- ◆戸別受信機の導入など多様な手段による情報伝達の検討
- ◆「緊急速報メール」、「広島県防災情報メール」の活用・登録の促進
- ◆家族や地域住民などによる「避難の声掛け」推進に向けた取組の検討

- ◆「指定緊急避難場所」への早期避難を促す取組の推進
- ◆自宅に近い安全な場所への避難など地域に応じた避難のあり方の検討
- ◆避難所における避難空間・設備など環境改善の検討
- ◆避難行動要支援者の避難場所への移動の支援に係る検討
- ◆避難訓練の方法、内容の改善・充実
- ◆自主防災組織の育成・体制の構築（住民福祉協議会との連携）

復興プラン

30年後も、50年後もキプリと光り輝くまちへ

くらしの再建	①すまいの再建支援	<ul style="list-style-type: none"> ・公営住宅等への入居支援 ・応急仮設住宅への入居支援 ・被災者向け借上げ住宅（みなし仮設住宅）への入居支援 ・被災住宅の応急修理 ・被災建物撤去・土砂混じりのがれき撤去 ・宅地内の土砂撤去 ・被災者生活再建支援制度
	②災害公営住宅等の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・災害公営住宅の整備
	③住環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・災害廃棄物の処理
	④くらしに関する総合的な支援	<ul style="list-style-type: none"> ・坂町地域支え合いセンター運営事業 ・被災者の見守り、相談、こころのケア ・子どもの心のケア ・坂町ボランティアセンター ・災害弔慰金・災害見舞金及び義援金の支給 ・医療費・介護サービス利用料の免除 ・災害に関する各種手数料の免除 ・通学費の補助
まちの復旧・インフラの強靱化・まちの賑わい創出	①社会基盤の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・復興まちづくり総合支援事業（・宅地等基盤整備に関する復興まちづくり計画検討 ・雨水排水処理能力検証） ・公共土木施設等の復旧（河川、道路、がけ崩れ） ・広島県による緊急的な砂防・急傾斜地対策 ・国による砂防対策 ・広島県による治山谷止め工の新設 ・下水道施設の復旧 ・ため池の廃止 ・リサイクルセンター坂の新設 ・小屋浦みみょう保育園の建替え ・公園の復旧 ・ふるさと自然のみちの復旧
	②まちの賑わい創出	<ul style="list-style-type: none"> ・復興イベントの開催
災害に強いまち・防災を	①防災対策の構築・防災力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・坂町地域防災計画の見直し等 ・防災行政無線戸別受信機の無償貸与 ・河川監視カメラの設置検討 ・消防備品の購入・施設の復旧
	②子どもの頃からの防災教育・災害の伝承	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの頃からの防災教育 ・災害を風化させない取組み

ワイヤーセンサー・強靱ワイヤーネット

坂地区



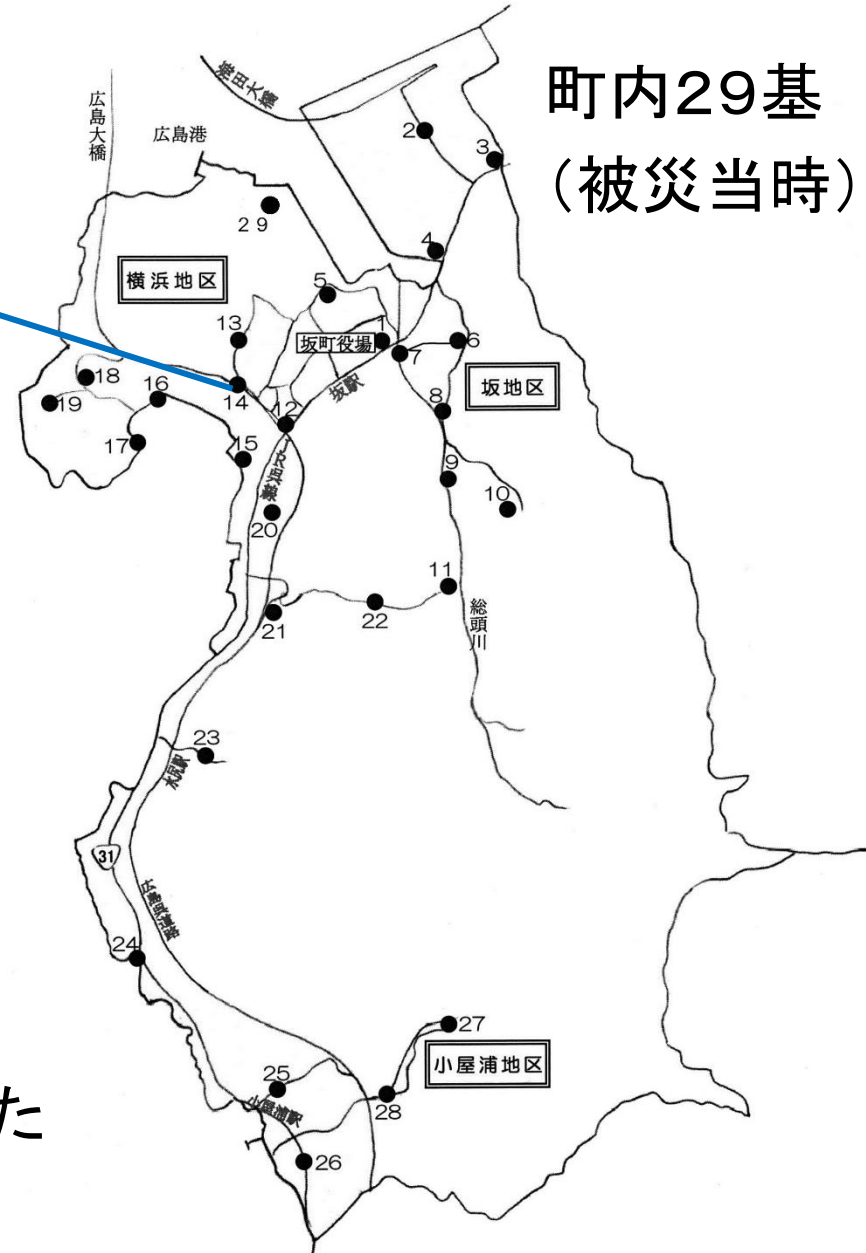
◀ 坂地区設置分

小屋浦地区



小屋浦地区設置分 ▶

坂町の主要な情報伝達手段



町内29基
(被災当時)

強雨時や窓などを締切っていると
聞こえなかったなどの声が寄せられた

戸別受信機配布による



- 屋外スピーカーの増設工事
- 希望世帯に戸別受信機の無償貸与
(R元年5月20日～)

⇒ 確実な情報伝達

早めの避難へ繋げる



終わりに

—「がんばろう!!坂町」を合言葉に、
坂町の復興へ向けて—

